

第1章

越谷市  
60年の

あゆみ

1958-2018



AYA HISTORY



越谷市制施行記念式典(昭和33年)

# THE KOSHIGI

# 古くは海の中、中妻の地から土器

## 古代

今から約4000〜5000年前、縄文時代後期のころ、越谷を含む現在の海抜約10メートルまでの地は海の中にありました。約3000年前になると、地球の気温が現在のような温度に下がり、海が後退し、河川によって運ばれた土砂によって沖積地が形成されました。

人々は丘陵地や台地から稲作に適した沖積地に移り住み、自然堤防に集落を構成し農業を始めるようになりました。こうした中で、越谷に人々が住みつくようになったのは、増林地の中妻の地から集落跡や土器が発見されたことから、古墳時代前期であると推定されます。

その後、大和朝廷により国や郡が設けられ、当時、越谷は元荒川を境に武蔵国と下総国、綾瀬川を境に武蔵国埼玉郡と足立郡に分けられていました。このころ大相模郷に天平勝宝2年(750)に大聖寺が、貞観2年(860)に野島の浄山寺が創建されたと伝えられています。



▲大聖寺(相模町)



▲見田方遺跡から出土した土器

16世紀	15世紀	14世紀	13世紀	12世紀	11世紀	10世紀	9世紀	8世紀	6世紀	3世紀
1586	1478	1333	1249	1194	1040	939	860	771	750	3世紀後半
天正14	永禄5	元弘3	建長元	建久5	長久寛徳年間	天慶2	貞観2	宝亀2	天平勝宝2	6世紀後半
岩槻城代北条氏繁、大相模不動院に 太田氏房、大相模不動院に禁制を 発す	越谷(谷)の領地を安堵する 呑龍上人、平方の林西寺に入り剃髪 する	鎌倉北条氏滅亡 足利尊氏、大泊安国寺に利生塔を造 塔したと伝える	(現在の御殿町) 金沢称名寺文書新方検見帳に恩間の 地名が載せられている	大河土御厨(越谷の一部を含む八条領 など)と越ヶ谷久伊豆宮神人との争 いが起きる	野与党の一族古志賀谷二郎為基や大 相模二郎能高が越谷に定住	平将門、王城を建設、新皇と称した 大沢(現在の北越谷)の浅間社が勧請 されたと伝える	野島に天台宗慈福寺(現在の曹洞宗 浄山寺)が創建されたと伝える	武蔵国は東山道より東海道に編入 される。以来奥州海道、甲州海道な ど海道と称された	大相模不動坊(相模町大聖寺)が創建 されたと伝える	増林中妻(増林一丁目)に古墳時代前 期の集落がつくられ、人々の生活が営 まれるようになった 見田方(大成町)に古墳時代後期の集 落がつくられる

# 中世の動乱と板碑

## 中世

平安末期から鎌倉期にかけて武士が登場しましたが、この武士を中心に新田開発が進められていきました。越谷には武蔵七党のうち野与党の一族に古志賀谷(越谷)二郎為基、大相模二郎などの名がみられます。

また、中世には生前に死後の冥福を願って立てられた石の塔婆が数多く建立されています。これを板石塔婆とも板碑ともいいます。越谷ではこの板碑は建長元年(1249)銘のものをはじめ200基以上が確認されており、当時の人々の生活の一端をうかがうことができます。子育てで有名な呑龍上人が住職を務めていた平方の林西寺をはじめ、迎摂院、安国寺、天獄寺など市内の主な寺院は、中世の開山を伝えています。

鎌倉期から南北朝を経て戦国時代を迎え、天正2年(1574)の上杉謙信の関東撤退後は北条氏が関東を制覇することになりました。



▲天獄寺(越ヶ谷)



▲建長元年板碑(御殿町)

18世紀			17世紀			16世紀																		
1783	1780	1762	1742	1716	1704	1698	1695	1680	1662	1660	1657	1641	1630	1629	1625	1617	1604	1603	1600	1600	1594	1590		
天明3	安永9	宝暦12	寛保2	享保元	宝永元	3	11	元禄8	延宝8	寛文2	万治3	明暦3	18	7	6	寛永2	元和3	9	8	慶長5	7	文禄3	18	
大沢町大火	浅間山噴火。越谷地域も大凶作	大松屋福井家越ヶ谷宿本陣となる	浦生一村総検地。名主処罰	鷹場復活。越谷地域も鷹場となる	関東洪水。越谷地域の被害も甚大	富士山大噴火。越谷地域にも灰が降り不作	旗本知行所に分給される	越ヶ谷地域などの幕府領総検地	越ヶ谷宿など日光道中に助郷帳が交付される	小菅村から隅田村までの新綾瀬川開通。綾瀬川は排水河川となる	幸手用水路(葛西用水)が開かれる	江戸城焼失。越ヶ谷御殿が江戸城二の丸に移される	関宿より金杉間の新江戸川開通	国道筋になる	草加宿成立。日光道中はほぼ旧4号	荒川を入間川筋に瀬替。熊谷からの荒川は元荒川と称された	三野宮・大道・大竹・恩間を岩槻藩領とする	家康廟を日光山に改葬。以来、奥州海道の手住宇都宮を日光道中と呼ぶようになる	家康、江戸に幕府を開く	関ヶ原戦の勝利で家康天下に君臨	このころ奥州海道を公道に指定。四丁野村の一部に越ヶ谷宿が取立てられる	利根川は廢川となり古利根川となっていく	伊奈忠次、利根川を太日川(江戸川筋)に付替え。これ以降、鷲宮以南の利根川は廢川となり古利根川となっていく	小田原北条氏滅亡。代わって徳川家康関東移封江戸城を本城とするよう命ぜられる

# 日光道中第三の宿場町の誕生

天正18年（1590）7月、豊臣秀吉の関東攻めで北条氏は滅ぼされ、代わって徳川家康が関東へ入国しました。徳川氏は荒川や利根川の流路の大改修を行うほか、葛西用水の開発など幾多の用排水路を整備しました。

また、慶長7年（1602）に奥州海道（後の日光道中）にも伝馬制が敷かれ、越ヶ谷宿が取り立てられました。宿場は公用荷物運輸の中継所として設けられたものです。街道沿いに新しく家並みが造成され、天保14年（1843）には、戸数1005軒、人口4603人を数え、旅籠屋は、本陣、脇本陣を含め57軒に及びます。

徳川家康は民情の視察を兼ね、鷹狩りをしながら各地を訪れていました。はじめ寺社や民家などで休んでいましたが、しだいに家康の別荘である御殿が設けられていきました。増林にも御茶屋御殿が設けられましたが、慶長9年（1604）に越ヶ谷に移されました。

▲歌川広重の「武蔵越かや在」（埼玉県立歴史と民俗の博物館所蔵）



▲現在も残る古い家並

明治	19世紀	18世紀
1894	1865	1786
1889	1867	1792
1884	1854	1816
1883	1864	6
1879	1865	寛政4
1874	1867	衛門家などの土地は取り上げられる
1873	1868	大沢町大火
1872	1869	越ヶ谷町山崎篤利・小泉市右衛門・町山善兵衛・平田篤胤の門人となる
1871	1870	越ヶ谷谷分署が越ヶ谷警察署に昇格
1869	1871	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1868	1872	日清戦争が始まる。越谷の出征兵にも戦死者が出る
1867	1873	郡役所が置かれる 県議会・町村議会議が開かれる
1865	1874	越谷などは江戸川筋御旗場に指定される
1864	1875	越谷などは連合戸長役場に編成される
1863	1876	町村制により大相模村など8カ村および越ヶ谷・大沢町組合成立
1862	1877	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1861	1878	草加警察越ヶ谷分署が越ヶ谷警察署に昇格
1860	1879	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1859	1880	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1858	1881	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1857	1882	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1856	1883	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1855	1884	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1854	1885	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1853	1886	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1852	1887	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1851	1888	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）
1850	1889	日光道中、千住〜粕壁間に千住馬車鉄道が開通（後、草加馬車鉄道が大沢まで）

# 近代化と交通の変革

## 近代

現在の越谷市域は明治元年（1868）

武蔵知県事、同4年には埼玉県、同12年には南埼玉郡の管轄となり、同22年には市制・町村制で2町8カ村になりました。

この間、学校や郵便所、町村役場が整備されました。同26年には千住く粕壁間に千住馬車鉄道が、同32年には千住く久喜間に東武鉄道が開通しました。

当時の停車場は北千住、西新井、越ヶ谷（現在の北越谷）、粕壁（現在の春日部）、杉戸（現在の東武動物公園）、久喜の6停車場でした。

そのころ越ヶ谷町などの貨物輸送は、綾瀬川などから舟で運んでいましたが、大正9年（1920）4月に越ヶ谷町に停車場が開設されてからは鉄道輸送に切り替えられました。

また、大正2年（1913）には越ヶ谷町・大沢町に初めて電灯がとまりました。



▲高瀬舟



▲元荒川の鉄橋を渡る蒸気機関車

昭和	大正	明治
1947	1921	1899
1945	1920	1904
1941	1916	1908
1936	1913	1910
1930	1910	1908
1923	1908	1904
昭和5	1904	1904
越ヶ谷町立実科高等女学校が県に移管。越ヶ谷高等女学校と称される	1904	1904
健康保険類似組合「越ヶ谷順正会」が設立	1904	1904
16 太平洋戦争が始まる。越谷の出征兵にも多数の戦没者が出る	1904	1904
11 終戦。連合軍の一部隊が荻島飛行場に駐屯	1904	1904
20 関東洪水。越谷地域の被害も甚大	1904	1904
22 六三制義務教育制により新制中学校が開校	1904	1904
農地解放により大地主姿を消す	1904	1904
23 越ヶ谷大沢自治体警察が発足（26年廃止）	1904	1904
29 11月 越谷地区2町8カ村が合併し越谷町となる	1904	1904
合併後初の町議会が越ヶ谷高等学校講堂で開かれる	1904	1904
青年団が設立される	1904	1904
12月 町長選挙が行われる。初代町長に大塚伴鹿氏が当選	1904	1904
新警察法施行（自治体警察廃止）。電気掃除機、冷蔵庫、洗濯機が三種の神器と呼ばれる	1904	1904
	大正2	32
	蒲生の綾瀬川に武陽水陸運輸株式会社が設立される	越ヶ谷町大火
	43 関東洪水。越谷地域の被害も甚大	東武鉄道千住く久喜間が開通。越ヶ谷（大沢町）と蒲生（三軒家）に駅が設けられる
	41 宮内庁埼玉鴨場が開設される	日露戦争が始まる。越谷の出征兵にも多数の戦没者が出る
	37 関東洪水。越谷地域の被害も甚大	も多数の戦没者が出る
	5 新方領耕地整理事業完成	
	9 東武鉄道越ヶ谷駅が開設され、大沢の旧越ヶ谷駅は武州大沢駅と改称される	
	10 古利根川大吉の重り土橋が改築される	
	12 関東大震災。越谷の被害も甚大	
	郡制廃止	

# 越谷市誕生。

## そして人口急増へ

### 昭和30年代

昭和28年（1953）、町村合併促進法が施行され、町村合併の気運が高まる中、昭和29年11月に越谷地区2町8力村が合併して、越谷町となりました。昭和30年9月には、町役場新庁舎が越ヶ谷一丁目に完成しました。その後、草加町の伊原、麦塚、上谷の越谷町への編入を経て、昭和33年11月3日、県下で22番目、全国で543番目に市制が施行され人口4万8318人の越谷市が誕生しました。

当時の暮らしに目を向けると、昭和31年に経済企画庁（現在の内閣府）から発表された経済白書の副題には「もはや戦後ではない」と記されており、日本経済は高度成長へと進み出しました。昭和35年には、人口が5万人を突破しました。また、人口の増加に合わせて地下鉄日比谷線が北越谷駅まで相互乗り入れ、首都圏のベッドタウンとして、その後の人口の急増時代を迎えることとなります。東



▲越谷町合併3周年記念式典(昭和32年)

昭和32年(1957)		昭和31年(1956)				昭和30年(1955)								
7月	4月	12月	10月	8月	4月	2月	1月		11月	10月	9月	4月	3月	1月
大袋地区に集回赤痢発生、2618人が強制検査（保菌者102人）	出羽地区に町立第1診療所が完成 増林・大相模の中学校2校が合併し、越谷町初の統合中学として東中学校が開校	武州大沢駅が北越谷駅と改称される 第1回町内一周駅伝競走が行われる 新方向畑と松伏を結ぶ堂面橋が完成	平方と春日部赤沼を結ぶ古利根橋が完成 第1回町民体育祭が開催される	大相模西方と増林東小林を結ぶ不動橋が完成	商工会が元荒川堤（南荻島く瓦曾根堰）に桜の苗木1300本を植える	各地区の農業共済組合が統合される	越谷周辺に生息する「シラコバト」が国の天然記念物に指定される		草加町の伊原、麦塚、上谷を越谷町に編入	合併後初の町議会議員選挙が行われ、議員30人が選出される	町役場新庁舎が越ヶ谷一丁目完成、越谷町合併・役場庁舎竣工の祝賀式典が執り行われる	町役場新庁舎が越ヶ谷一丁目完成、越谷町合併・役場庁舎竣工の祝賀式典が執り行われる	消防団（10分団）が結成される 体育協会が発足 社会福祉協議会が発足 連合婦人会が発足	「越谷町」の町章が決定される 商工会が設立される

国連総会で日本の加盟を可決。日ソ国交回復



▲第1回町内一周駅伝競走(昭和31年)



▲越谷町役場庁舎(後の市役所庁舎)(昭和30年)

京五輪開催で日本中が沸いた昭和39年、マイカー時代の到来に合わせて道路整備が進められ国道4号・草加バイパスの工事が始まりました。



▲越ヶ谷中学校(当時)の校庭で行われた第1回町民体育祭(昭和31年)

昭和34年(1959)				昭和33年(1958)				昭和32年(1957)					
9月	8月	5月	4月	12月	11月	9月	6月	5月	3月	12月	11月	9月	8月
大袋地区の簡易水道の通水式が行われる 初の鉄筋コンクリート造り校舎が中央中学校に完成	国際興業バス、越谷↔大宮間(大門野田経由)バス路線の運転を開始	宮前橋が完成	越ヶ谷中学校と大沢中学校を統合、中央中学校が開校する	初の市長選(無投票)において大塚伴鹿氏が当選 市制施行後初の市議会が庁舎会議室で開かれる	市制が施行される(人口4万8318人) 市制施行記念式典が執り行われる 第1回郷土物産大品評会を開催 福祉事務所が設置される	青少年補導委員会が発足 文化財保護条例が制定される	大沢交差点に初の自動信号機が設置 三野宮橋が完成	越谷上水道が通水される	定例町議会で町税条例の一部が改正され、都市計画税が課税される	合併3周年記念行事が開かれ、越谷音頭を発表 上水道工事に着手	建設省から都市計画の指定を受ける	大袋小学校にプール第1号が完成 140メートル	町初の舗装道路完成。越谷駅前から赤山街道に通じる町道(弥生町)で、幅5・85メートル、延長140メートル

昭和30年代



▲安全都市宣言(昭和37年)



▲北越谷地区土地区画整理事業(昭和37年)

昭和37年	昭和36年(1961)	昭和35年(1960)	昭和34年(1959)
1月	11月	11月	10月
<p>開発公社が設立される</p> <p>全国初の子宮がん集団検診が行われる</p> <p>北越谷地区で初の土地区画整理事業に着手</p>	<p>増林浄水場が完成</p> <p>第1体育館が完成</p> <p>警察署庁舎が新築移転(大沢)</p> <p>越谷で全国初の胃がん集団検診始まる</p>	<p>越谷松伏水道組合が発足</p> <p>越谷郵便局舎が越ヶ谷に完成</p> <p>園芸組合連合会が発足</p> <p>防犯協会が発足</p> <p>越ヶ谷小学校にプールが完成</p> <p>人口が5万人を突破</p> <p>工業連合会が結成される</p> <p>商工会が法制商工会となる</p> <p>越谷郵便局が特定局から普通局に昇格</p> <p>御殿町から瓦曽根溜井まで、葛西用水と元荒川の分離工事が始まる</p> <p>安保条約改定反対デモ激化。池田内閣が「国民所得倍増計画」を策定。NHK・民放4社がカラーテレビ放送を開始</p>	<p>市制施行後初の市議会議員選挙が行われる</p> <p>市消防署が新築開署、消防車を購入する</p> <p>都市計画の基本計画が策定される</p> <p>皇太子明仁親王が正田美智子さんとご成婚。伊勢湾台風で死者・不明者5098人。テレビの普及台数が増える</p> <p>新方中学校、桜井中学校、大袋中学校を統合し、北中学校が開校</p> <p>蒲生中学校を南中学校と改称する</p>



▲下水道事業(昭和39年)



▲越ヶ谷商店街(越ヶ谷本町・中町)(昭和30年代)

昭和39年(1964)				昭和38年(1963)				昭和37年(1962)					
10月	8月	6月	4月	8月	7月	6月	4月	3月	11月	9月	5月	4月	3月
オリピック東京大会が開催。東海道新幹線(東京駅〜新大阪駅)が開通。新潟地震が発生	農業協同組合の建物(赤山町)に完成	地下鉄日比谷線が中目黒まで全線開通 国道4号バイパスの工事が始まる 30年計画で下水道事業に着手	市営火葬場が登戸町に完成	ケネディ米大統領が暗殺される。 名神高速道路(尼崎IC〜栗東IC)が開通。黒部川第四発電所(黒四ダム)が完成	都市計画法により市内の用途地域を指定 自治会連合会が発足	稲の害虫防除としてヘリコプターによる初の農業散布が行われる	歯科医師の山崎清氏が初の名誉市民となる 蒲生地区の一部を除き商店の週休制が実施される 青少年問題協議会が発足	越谷電報電話局庁舎が完成し、市内の電話がダイヤル式になる 市内11農協が合併し、越谷市農業協同組合が発足	堀江謙一氏が小型ヨットで単独太平洋横断に成功。当時、日本最長の北陸トンネルが開通。テレビ受信契約が1000万件を突破	市長選(無投票)において大塚伴鹿氏が再選	大相模見田方耕地で古墳時代の土器発見 消防署で救急車が購入され、救急活動開始 地下鉄日比谷線が北越谷駅まで相互乗り入れ	東武ガスが1600戸に都市ガスの供給を始める	安全都市宣言をする

昭和40年代

# 日本の経済成長とともに

## 都市化するまち

農地の宅地化や地下鉄日比谷線の東武伊勢崎線への相互乗り入れなどに伴い、昭和42年（1967）には、人口が10万人を突破しました。都市化の進展でまちの様子も大きく変わり、人口の急増は、まちを活性化させる反面、さまざまな問題を抱えました。農地の埋め立てによる無秩序な住宅地の拡大、地下水の汲み上げによる地盤沈下、排水不良による浸水被害、汚水流出による河川の汚濁、交通事故や防災上の問題、学校や医療施設などの不足が生じてきました。これらに対応するため、市ではさまざまな方策が進められました。増え続ける人口に追われるようなまちづくりの時代が続きました。

一方、昭和42年には埼玉県体が開催され、越谷市ではバドミントン競技が行われました。また、この年、国道4号（草加バイパス）が開通し、高度経済成長に



▲現在の市役所庁舎が完成（昭和44年）

昭和42年(1967)			昭和41年(1966)				昭和40年(1965)								
10月	9月	5月	4月	12月	11月	10月	6月	5月	4月	1月	11月	10月	9月	5月	3月
人口が10万人を突破 埼玉県開幕、バドミントン競技が第1・第2体育館で行われる	消防署庁舎が完成	北越谷地区土地区画整理事業の記念会館（後の北越谷公民館）が完成	せんげん台駅が開業 川柳小学校が開校 越谷松伏水道組合が越谷松伏水道企業団に名称を変更 東部清掃組合にし尿処理場が完成 不動橋架け替え完成	中国で文化大革命が始まる。いざなぎ景気が始まる。ビートルズが来日 大相模見田方遺跡の発掘調査開始	市長選（無投票）において大塚伴鹿氏が3選 国道4号（草加バイパス）の舗装工事が始まる	平和橋の架橋工事が始まる	越谷駅前通りがほぼ完成	武蔵野東線（現在のJR武蔵野線）が市内で着工 商工会と工業連合が合併し、新商工会が発足 新平和橋が完成 出津橋が完成	立正女子大学（現在の文教大学）が開校 南部浄水場が完成	朝永振一郎氏がノーベル物理学賞を受賞。日韓基本条約調印。ベトナム戦争で米軍による北爆が開始	県民の鳥に「シラコバト」決定	埼玉県東部清掃組合が発足	福祉会館が完成し、市立図書館が同館内に移転 初の横断歩道橋が越ヶ谷観音横町（現在の越ヶ谷三丁目）に完成	大沢・大房の一部で市内初の新住居表示が施行される	初の市営住宅が大袋に建設される



▲大袋にできた初の市営住宅(昭和40年)

伴い増える交通量に対応しました。さらに、現在の市庁舎が完成、市制施行10周年を祝う式典とともに新築落成記念式典が執り行われました。



▲福祉会館(昭和40年)

昭和44年(1969)					昭和43年(1968)					昭和42年					
11月	10月	9月	6月	5月	4月	3月	12月	11月	8月	5月	4月	2月	1月	12月	
北部浄水場が完成	市役所に市民相談室を開設	元助役の池ノ谷与一郎氏が名誉市民になる 給食センターが完成。市内中学校5校、小学校5校に給食の配送を開始	市制施行10周年並びに市庁舎新築落成記念式典が執り行われる	養護老人ホーム「順正苑」が開設 県越谷保健所、県越谷土木事務所が開所	浦生第二小学校(校舎は浦生小学校)、県立越谷北高等学校が開校 越谷市水道事業と越谷松伏水道企業団が合併。越谷・松伏水道企業団となる	瓦曽根溜井埋立地に市役所庁舎並びに県合同庁舎が完成	川端康成氏がノーベル文学賞を受賞。三億円強奪事件が発生。小笠原諸島がアメリカから返還される(地)	国民健康保険施行30周年を迎える(越谷は国保発祥の地)	社会福祉協議会が社会福祉法人となる	市制施行10周年を迎える	東小林汚水処理場が完成	市役所に交通事故相談所を開設 蒲生、大里でみどりの箱を設置し、県内初の機械化によるごみ収集が行われる	市独自の宅地造成事業協議基準が設置される 市史編さん事業に着手 戸籍謄・抄本、住民票の写しの交付の電話受付が始まる	市民交通傷害保険制度が発足 東部清掃組合のごみ焼却場が完成 南越谷小学校が開校	国道4号(草加バイパス)(足立区保木間〜越谷市下間久里)が全線開通 ヨーロッパ共同体(EEC)が発足。イタイイタイ病が発生

昭和40年代



▲見田方遺跡発掘(昭和41年)



▲消防署庁舎(昭和42年)

昭和47年(1972)				昭和46年(1971)				昭和45年(1970)				昭和44年							
8月	6月	5月	4月	12月	11月	9月	6月	4月	2月	12月	11月	10月	8月	4月	3月	2月	1月	12月	
戦後初の花火大会が元荒川で開催				越谷市総合振興計画の基本構想が策定される				三野宮橋の架け替え完成				大袋北小学校(校舎は大袋小学校)、富士中学校が開校				環境庁を設置。円が変動相場制へ移行			
				第1回農業祭が第1体育館で開催				第1回交通安全市民集会を開催				第1回商工物産展が第1体育館で開催				第1回市民文化祭が開催			
				人口が15万人を突破				県立越谷青年の家が開所				学園が開設される				精神薄弱児(現在の知的障害児)通園施設「みのり学園」が開設される			
				消防署谷中分署が開署				大沢北小学校が開校				大阪で日本万国博覧会(EXPO'70)が開催。日航機よど号ハイジャック事件。三島由紀夫が割腹自殺。人口が初めて1億人を超える(第11回国勢調査より)				神明橋が開通			
				大塚伴鹿氏が市長退任				ごみ収集区域が市内全域になる				市長選において島村平市郎氏が当選				新都市計画法による市街化区域と調整区域が決まる			
				図書館で図書の巡回貸し出し始まる				南中学校が移転、東越谷小学校(校舎は越ヶ谷小学校と増林小学校)が開校				堂面橋の架け替え完成				文化連盟が設立			
																アポロ11号が人類初の月面着陸。東名高速道路(東京IC〜小牧IC)が全面開通。大学紛争が激化し、東大安田講堂が占拠され機動隊が出動			
																レクリエーション協会が設立			



▲市制施行10周年並びに市庁舎新築落成記念式典(昭和44年)



▲移動図書館しらかばと号(昭和48年)

昭和49年(1974)					昭和48年(1973)					昭和47年						
11月	9月	7月	6月	5月	4月	3月	1月	12月	11月	10月	4月	3月	2月	1月	12月	
佐藤栄作氏がノーベル平和賞を受賞。長島茂雄選手が現役引退。高校進学率が90%を超える	スポーツ・レクリエーション都市宣言をする	寝たきり老人のための移動浴そう車「しあわせ号」がスタート	東武伊勢崎線新越谷駅が開業	北越谷地区が行政区画となる 第二学校給食センターが完成 開発指導要綱が施行される	大袋東小学校(校舎は大袋小学校)、北陽中学校、県立越谷南高等学校が開校	市内初の土地区画整理事業が北越谷地区で完了	大沢・大袋・蒲生・南越谷の4小学校に市内で初めて学童保育室が開設	市役所に緊急処理センターが開設	市宮齋場が東町に完成	市長選において黒田重晴氏が当選	島村平市郎氏が市長退任	准看護学校が開校 越谷貨物ターミナル駅が開業	浦生南小学校、北越谷小学校(校舎は大沢小学校)が開校	消防署蒲生分署が開署	公害防止条例が制定される	戸籍謄・抄本、住民票の写しなどの取り次ぎ店を市内5カ所に設置
																冬季オリンピック札幌大会が開催。連合赤軍浅間山荘事件。沖縄が本土に復帰。日中国交が回復

昭和50年代

# 福祉・医療の充実と

## 快適な生活へ

昭和50年代に入ると、住民の医療や福祉に重点が置かれ、重度心身障がい者の医療費の無料化や看護専門学校の開校、市立病院の開院がありました。人口は年々増加し、昭和51年（1976）には、20万人を突破しました。また、人口の増加に伴い小・中学校が各地域で相次いで開校されました。市制施行20周年となる昭和53年には、「越谷市民であることに誇りと責任を持ち、水と緑と太陽に恵まれた豊かなまちを築くため限らない願いをこめて」という市民憲章が制定されました。昭和54年には、市民のふれあいを目的に建設が進められていた越谷コミュニティセンターが開館し、市制施行20周年記念式典が盛大に執り行われました。昭和57年になるとせんげん台駅南陸橋が開通し、東西の往来が便利になりました。住みよい環境として、生活の利便性だけでなく快適性（アメニティ）が求められる



▲市立病院が開院(昭和51年)

昭和53年	昭和52年(1977)	昭和51年(1976)	昭和50年(1975)
2月 1月	11月 4月 3月	11月 9月 4月 1月	11月 10月 9月 4月 3月 2月
市立病院が越谷市医師会に加盟 都市総合交通規制を実施	王貞治選手が756号本塁打を打ち、初の国民栄誉賞を受賞。有珠山(北海道)が爆発。樋口久子選手が全米女子プロゴルフ選手権で初優勝 黒田重晴氏が市長退任 市長選において島村慎市郎氏が当選 県立越谷養護学校が開校 光陽中学校が開校 国道4号(草加ハイパス)越谷〜春日部が開通	ロッキード事件が発生。鹿児島市立病院で日本初の五つ子が誕生 粗大ごみ処理センターが完成 人口が20万人を突破 肢体不自由児通園施設「あけぼの学園」が開園 市立病院が開院 西方小学校、宮本小学校、栄進中学校が開校	越谷市総合振興計画中期計画策定 初代市長の大塚伴鹿氏が3人目の名誉市民になる 平方小学校、弥栄小学校、大間野小学校が開校 蒲生第二小学校に障がい児学級を設置 市立高等看護学院(後の看護専門学校)が開校 第1回交通安全市民まつり(現在の越谷市民まつり)が開催 老人農園が開園 重度心身障がい者の医療費が無料になる スポーツ少年団が結成 第三セクターによる越谷コミュニティプラザ株式会社が発立される 東海道・山陽新幹線(東京駅〜博多駅)が全線開通。ベトナム戦争が終結。沖縄国際海洋博覧会が開催



▲市民憲章の碑が完成(昭和53年)

れるようになり、越谷の美しい自然を選んだ越谷アメニティ八景が選ばれ、絵はがきも発行されました。昭和58年には、市制施行25周年・文化都市宣言記念式典で文化都市宣言が多数の市民の前に宣言され、越谷市の一層の発展を祈りました。



▲市制施行20周年・越谷コミュニティセンター落成記念式典(昭和54年)

昭和55年(1980)				昭和54年(1979)				昭和53年(1978)						
12月	7月	5月	4月	9月	8月	7月	6月	4月	3月		11月	6月	5月	4月
葛西用水中土手にチューリップが植えられ、平和橋たもとにフジ棚ができる	水道管理センター(現在の越谷・松伏水道企業団庁舎)が完成	精神薄弱者(現在の知的障害者)通所授産施設「しらこぼと職業センター」が開所	大袋中学校が開校 市役所別館が完成 私立獨協埼玉高等学校が開校	消費生活センターが越谷コミュニティセンター内に開所(現在は中央市民会館内)	越谷コミュニティセンターが開館。市制施行20周年・越谷コミュニティセンター落成記念式典が執り行われる	越谷税務署が開署	県営しらこぼと水上公園がオープン	明正小学校、武蔵野中学校、県立越谷西高等学校が開校	下間久里の獅子舞が県指定文化財になる		越谷市総合振興計画第2次中期計画を策定	流通センター内に流通公園サッカー場が完成	勤労者住宅資金貸付制度を開始	鷺後小学校、平方中学校が開校
					日本坂トンネル事故が発生。東京サミットが開催。初の国立立大学共通1次試験実施、受験者約53万人					新東京国際空港(成田空港)が開港。サンシャイン60が完成。冒険家の植村直己氏が世界初の単独北極点到達に成功	市制施行20周年を迎え市民憲章、市の木、市の花、市の歌を制定			

昭和50年代



▲千間台駅南陸橋が開通(昭和57年)



▲第1回消費生活展(昭和58年)

昭和57年(1982)					昭和56年(1981)					昭和55年						
11月	9月	8月	6月	5月	4月	3月	11月	10月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	
法務局が東越谷に開設	台風18号により市内に被害がでる	都市提携委員会が発足	福祉環境整備要綱が実施される 越谷アメニティ八景が市民投票で決定	シルバー人材センターが設立される	南体育館が開館 県立越谷東高等学校が開校	千間台駅南陸橋が開通 元教育長の秋山長作氏が4人目の名誉市民になる	福井謙一氏がノーベル化学賞を受賞。夕張炭鉱(北海道)で事故が発生	市長選において島村慎市郎氏が再選	台風24号により市内に被害がでる	福祉タクシー利用料金補助制度を開始 東部清掃組合第二工場し尿処理施設が完成	あだたら高原少年自然の家が福島県二本松市に開館	千間台小学校、桜井南小学校、新栄中学校が開校 地域体育館として初の北体育館が開館	第1回公民館フェスティバルが越谷コミュニティセンターで開催 鉄道高架化促進期成同盟会が結成される	見田方遺跡公園に郷土資料収納館が完成	葛西下流地区地盤沈下対策事業として古利根堰の改築に着手(対策事業は昭和54年6月にスタート)	イラン・イラク戦争が始まる。1億円拾得事件、オリンピックモスクワ大会に日米中独などが不参加



▲市立図書館が開館(昭和58年)



▲市制施行25周年・文化都市宣言記念式典(昭和58年)

昭和59年(1984)				昭和58年(1983)						昭和57年						
9月	5月	4月	3月	12月	11月	9月	7月	6月	5月	4月	3月	12月				
グリコ・森永事件。1万円、5000円、1000円の新札が発行される。NHKが衛星テレビ放送開始	越谷のだるまが「越谷張子だるま」として県伝統的手工芸品に指定される	西体育館が開館	千間台中学校が開校 老人福祉センターけやき荘が開館 建築行政全般を司る特定行政庁となる オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州キャンベルタウン市と姉妹都市提携調印	越谷総合食品地方卸売市場が開場 第2次越谷市総合振興計画基本構想を策定	大韓航空機墜落事件。三宅山噴火。東京デイズ二ーランドが開園	消防署大相模分署が開署 越谷ひな人形が県伝統的手工芸品に指定される	第1回消費生活展を開催	市制施行25周年・文化都市宣言記念式典が執り行われる	第1回伝統的地場産業合同展示会を開催	移動図書館しらこぼと号が2台になる	蒲生電話局が開局	第1回市民環境賞が決定	公共下水道が蒲生の一部で供用開始 大相模中学校が開校 市立図書館が東越谷に開館	環境管理計画を策定	日航機が羽田沖に墜落。新しく500円硬貨が発行される。東北新幹線、上越新幹線が開通	越谷警察署が東越谷に新築・移転 新方川改修が河川激甚災害対策特別緊急事業に採択される

昭和60年～平成6年

# 快適で便利な生活のため

## 都市基盤を整備

日本経済が安定成長に移行したころから人口の増加が落ち着きはじめ、スポーツや文化活動などの健康的で余暇を楽しむ生活が求められ、各施設の整備や各種団体の育成などの施策が進められました。昭和60年（1985）には、人口が25万人を突破しました。また、快適で便利な生活が営めるよう、道路や橋、公園、公共下水道、鉄道の複々線高架化工事など都市基盤の整備が進められました。昭和62年には、児童館コスモスの開館や県民健康福祉村のオープンがありました。昭和63年には、市制施行30周年を記念して「シラコバト」が市の鳥に制定されました。

平成に入ると東武鉄道伊勢崎線の連続立体交差事業が着工されました。平成3年（1991）には、近隣公園として全国初の本格的日本庭園「花田苑」が、平成5年には「こしがや能楽堂」が開



▲市制30周年記念式典(平成元年)

昭和62年(1987)				昭和61年(1986)				昭和60年(1985)												
7月	6月	5月	3月		11月	10月	8月	5月	4月	1月		11月	10月	9月	7月	5月	4月	3月	1月	
小鹿野町に市民保養施設「おがの山荘」を開設	せんげん台駅東口が放置自転車整理区域に指定される	県民健康福祉村がオープンする	児童館コスモスが開館	越ヶ谷久伊豆神社周辺と宮内庁埼玉鴨場を環境保全区域に指定	定使野橋が開通	スペースシャトル「チャレンジャー号」爆発。大島三原山大噴火。チエルノブイリ原発事故。東京サミットが開催	越谷駅前通りの電線埋設工事が始まる	あだたら高原「ふれあいの森」の植樹を開始	台風10号により市内に被害がでる	越谷郵便局の新局舎が完成	環境保全条例を施行	日航機が御巢鷹山(群馬県)に墜落。つくばで国際科学技術博覧会が開催	市立病院で世界初の卵管内受精による赤ちゃんが誕生	第1次行政改革大綱が策定される	市長選において島村慎市郎氏が3選	環境保全条例が制定される	人口が25万人を突破	東部清掃組合第二工場ごみ処理施設が稼働	アメニータウン計画を策定	地盤沈下対策事業として逆川改修が始まる



▲総合体育館が完成(昭和62年)

館しました。平成6年には、伊勢崎線の一部高架が開通し、元荒川以南の踏切8カ所が解消されました。また、市の鳥「シラコバト」をデザインしたしらこぼと橋が開通し、市のシンボルとなりました。



▲越谷駅前通りの電線埋設工事が行われる(昭和60年代)

平成元年(1989)	昭和63年(1988)	昭和62年(1987)
11月	11月	11月
10月	10月	9月
8月	8月	総合体育館が完成
7月	6月	東武鉄道伊勢崎線連続立体交差事業が計画決定される
4月	5月	利根川進氏がノーベル医学生理学賞を受賞。国鉄が分割民営化される
1月	4月	第一学校給食センターが新築
建設省から63年度インテリジェントシティの指定を受ける	3月	越谷梅林公園が開園
市制30周年記念式典が執り行われる	2月	さいたま博開幕、越谷ブースおよび伝統的手工芸品コーナーなどを設置
越谷都市計画都市高速鉄道東武鉄道伊勢崎線連続立体交差事業が着工開始	1月	県立越谷西養護学校が開校
越谷駅西口が開設	12月	姉妹都市キャンベルタウン市に茶室「越谷亭」を贈呈
市長選において島村慎市郎氏が4選	11月	市立病院が中国・丹東市第一医院と友好病院提携
初代越谷市長で名誉市民の大塚伴鹿氏の市葬が行われる	10月	保健センターが開館
昭和天皇崩御、平成に改元。消費税(3%)が導入される。ベルリンの壁崩壊。東京証券取引所の平均株価が史上最高値(3万8915円)をつける	8月	越谷市教育委員会とハワイ州教育局の教師相互派遣協定を調印
	7月	市立病院が中国・丹東市第一医院と友好病院提携
	6月	あだたら高原「ふれあいの森」の植樹が完了
	5月	市制施行30周年、「シラコバト」を市の鳥に制定
	4月	北部市民会館が開館
	3月	<b>世界最長の青函トンネルが開通。東京ドームが完成</b>

昭和60年～平成6年



▲日本庭園「花田苑」が開園(平成3年)



▲大吉調節池が完成(平成3年)

平成4年			平成3年(1991)							平成2年(1990)										
6月	4月	2月	12月	11月	10月	9月	8月	5月	4月	3月	10月	8月	7月	4月	3月	2月				
第1回子ども環境サミットを開催	テレビ広報番組「いきいき越谷」がスタート	中央市民会館が開館 向畑橋が開通	新栄橋が開通	湾岸戦争が始まる。雲仙普賢岳が約2000年ぶりに噴火。ソビエト連邦が消滅し、11の共和国へ	全国から約10000人が参加し、「地域づくり全国交流会議」を開催 貯水量40万トンの大吉調節池が完成	越谷市で初の国際会議「第7回日仏アメニティ会議」を開催	近隣公園として全国初の本格的日本庭園「花田苑」が開園 大杉橋が開通 第1回建築景観賞を決定	台風18号により市内に被害がでる	自治省の「地域情報ネットワーク整備構想」の指定を受ける	台東18号により市内に被害がでる	建設省「つるおい・緑・景観モデル事業」の指定を受ける	建設省「つるおい・緑・景観モデル事業」の指定を受ける	環境庁の「アメニティあふれる優良地方公共団体表彰」を受ける	花田第六公園に宇田家長屋門が復元	環境庁の「アメニティあふれる優良地方公共団体表彰」を受ける	こしがや能楽まちづくり推進事業を開始	インテリジェント・シティ整備基本計画が承認される	花田小学校が開校	吉越橋が開通	「越谷発・地球環境シンポジウム」を開催



▲大杉橋が開通(奥は旧橋)(平成3年)



▲中央市民会館が開館(平成4年)

平成6年(1994)					平成5年(1993)					平成4年(1992)				
11月	10月	9月	8月	4月	2月	10月	6月	5月	4月	3月	2月	9月	8月	7月
松本サリン事件が発生。大江健三郎氏がノーベル文学賞を受賞。関西国際空港が開港	東武鉄道伊勢崎線(上り)の一部高架が開通し、元荒川以南の踏切8カ所が解消 しらこぼと橋が開通	市民球場がオープン建設省の平成6年度環境共生モデル都市(エコシティ)に指定される	図書館に野口富士男文庫を開設	資源化センターに、不燃ごみの最終残渣ゼロを目指す、比重差選別機導入 架け替えた不動橋が開通	救急救命士(1月誕生)による高規格救急車が稼働 農水省主催の「農村環境保全機能シンポジウム」を開催 総合福祉計画を策定	東武鉄道伊勢崎線(下り)の一部高架が開通 市長選において島村慎市郎氏が5選	資源化センターに全国初のフロン回収装置を導入	老人福祉センターくすのき荘が開館	日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」が開館	エコトピア計画を策定	環境自治体国際会議'93こしがやが開催 エコトピア計画を策定	フランス・ディジョン市で越谷市設計の日本庭園起工式が行われる	越谷コミュニティセンターに南部出張所が開所 国際景観シンポジウム'92こしがやを開催	障害者福祉センター「こぼと館」(中央市民会館内)が開館

平成7年～平成20年

# 越谷らしさを前面に打ち出した 魅力的なまちづくりへ

地方分権の進展により個性的で魅力的なまちづくりが求められるようになりました。人口の増加も緩やかとなり都市施設が充実し、成長するまちから成熟するまちへと変わりつつあるなかで、安心して健やかに暮らすことのできるまち、自然と共生する緑豊かなまちが求められました。

平成7年（1995）には、県立越谷西高等学校が市内で初の夏の甲子園出場の快挙を成し遂げました。平成8年には、人口が30万人を突破し、平成9年には、東武鉄道伊勢崎線が越谷駅以南で高架複々線となり、ますます利便性が高まりました。平成10年には、市制施行40周年記念式典が執り行われ、市のシンボルマークと子ども憲章が発表されました。平成11年には、福祉のまちの実現を目指して福祉憲章を制定しました。また、市民と行政との協働によるまちづくりを進



▲市制施行40周年記念式典(平成10年)

平成9年(1997)				平成8年(1996)				平成7年(1995)								
10月	5月	4月	3月	12月	10月	7月	6月	5月	4月	1月	10月	9月	8月	5月	4月	1月
市長選において板川文夫氏が当選	相生陸橋が開通	保育ステーションが新越谷駅前に開設	越谷駅以南の東武鉄道伊勢崎線が高架複々線となり、新越谷駅にも準急(現在の急行)が停車	日米が普天間飛行場沖縄縄県などの返還に合意。病原性大腸菌「O157」による感染被害が相次ぐ	南部図書室(越谷コミュニティセンター内)が開設 人口が30万人を突破	福島県二本松市と災害時における相互応援に関する協定を締結	緑の森公園越谷市弓道場がオープン 都市防災河川等整備構想に基づく防災取水ピットとマンホールの第1号が完成	大沢北交流館が開館 キャンベルタウン野鳥の森で公立動物園では全国初となるクルマサカオウムの人工ふ化に成功	消防署大袋分署が開署 越谷甲冑が県伝統的手工芸品に指定される 市立病院に院内学級「おそろ学級」が開設	第2次行政改革大綱を策定	阪神・淡路大震災が発生。地下鉄サリン事件が発生。円相場が1ドル70円台に	東部清掃組合第二工場発電所が本格稼働 群馬県高崎市と災害時における相互応援に関する協定を締結	キャンベルタウン野鳥の森が開園	県立越谷西高等学校が市内の高校として初の甲子園出場 公共施設案内予約システム「越谷コミネット」がスタート	児童館ヒマワリが開館 赤山交流館が開館	阪神・淡路大震災へ救援活動 都市防災河川等整備構想を策定 第三学校給食センターが完成



▲県立越谷西高校が甲子園に初出場  
(平成7年)

めるため、第3次越谷市総合振興計画が平成12年に策定されました。平成16年には、彩の国まごころ国体の開催、国道4号東埼玉道路が開通しました。平成20年、JR武蔵野線の越谷レイクタウン駅が開業し、越谷レイクタウンがまちびらきしました。また、市制施行50周年記念式典が執り行われ、国の安全と市民一人ひとりの幸せ、世界の恒久平和の実現を願い平和都市宣言が制定されました。



▲埼玉県立大学が開学(平成11年)

平成12年(2000)	平成11年(1999)	平成10年(1998)	平成9年
11月	12月	11月	11月
沖縄サミットが開催。三宅島噴火で全島民避難。白川英樹氏がノーベル化学賞を受賞	越谷レイクタウン特定土地区画整理事業に着手 地域振興券が発行される。脳死移植が初めて行われる	市制施行40周年記念式典が執り行われる 子ども憲章、市のシンボルマークを制定	島村慎市郎氏が市長退任 市立病院の院内学級「おおぞら学級」が、東越谷小学校、東中学校と双方方向の通信システムで結ばれる。院内学級と学校間では全国初
2月	9月	7月	3月
市役所第二庁舎が完成	越谷市福祉憲章を制定	農業技術センターが開設 蒲生交流館、南部交流館が開館	キャンベルタウン野鳥の森にフラバーが贈られる 市立病院の増改築工事が完了し481床になる
4月	4月	6月	4月
第3次越谷市総合振興計画がスタート	河川防災ステーションを併設した新方公民館「なのはな」が開館	障害者福祉交流センター「しんめい」が開設	東京湾アクアラインが開通。香港がイギリスから中国に返還される。消費税が5%になる
11月	1月	5月	3月
桜井公民館「あすばる」が開館	越谷市子育てサロンが開設	出羽公園越谷市相撲場がオープン 獨協医科大学越谷病院内に救命救急センターが開設	蒲生公民館「パコム」が開館

平成7年～平成20年



▲第1回越谷市美術展覧会(平成13年)



▲保存民家大間野町旧中村家住宅の一般公開を開始(平成16年)

平成17年			平成16年(2004)				平成15年(2003)			平成14年(2002)		平成13年(2001)			
7月	4月	3月	11月	10月	9月	4月	10月	4月	3月	12月	11月	10月	7月	5月	3月
越谷市男女共同参画推進条例を施行			新潟県中越地震が発生。台風が相次ぎ、日本列島への上陸が最多の10個に。79年ぶりに鳥インフルエンザが発生				市立看護専門学校が閉校			産業雇用支援センター「ステップワークこしがや」がオープン		東武鉄道伊勢崎線の高架複々線化が完成 第1回越谷市美術展覧会を開催 科学技術体験センター「ミラクル」が開館 男女共同参画支援センター「ほっと越谷」がオープン 市長選において板川文夫氏が再選 アメリカで同時多発テロが発生。野依良治氏がノーベル化学賞を受賞			
南越谷公民館「ハレット」が開館			いきいき館(老人福祉センター)ゆりのき荘と市民プールの複合施設が開館				小児夜間急患診療所が開所			福祉保健オンブズパーソン制度が開始		しらこぼと運動公園競技場がオープン			
FIFAワールドカップ日韓共同開催。ノーベル賞W受賞(物理学賞・小柴昌俊氏、化学賞・田中耕一氏)			東武鉄道伊勢崎線と地下鉄半蔵門線・東急電鉄田園都市線が相互乗り入れ開始				特別市に移行			消防本庁舎が開設		越谷市まちの整備に関する条例を施行			
新型コロナウイルスSARSがアジアで流行。米スペースシャトル「コロンビア号」が空中分解。個人情報保護法が成立、住基ネットが本格稼働			市内13地区に地区センターを設置				彩の国まごころ国体開催、サッカー(成年女子)が行われる			彩の国まごころ国体開催、ソフト野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる		国道4号東埼玉道路が一部開通			
保存民家大間野町旧中村家住宅の一般公開を開始			保存民家大間野町旧中村家住宅の一般公開を開始												



▲越谷レイクタウンオープニングフェスタ (平成20年)



▲平和都市宣言の碑(平成20年)



▲市制施行50周年記念式典(平成20年)

平成20年(2008)				平成19年(2007)				平成18年(2006)			平成17年(2005)		
11月	8月	4月	3月	11月	10月	8月	4月	11月	10月	4月	11月	10月	8月
<p>北海道洞爺湖サミットが開催</p> <p>平和都市宣言をする</p> <p>市制施行50周年記念式典が執り行われる</p> <p>全国高等学校総合体育大会剣道大会を開催</p> <p>越谷市安全で安心な防犯のまちづくり条例、越谷市路上喫煙の防止に関する条例を施行</p> <p>越谷レイクタウンがまちびらき</p> <p>市民保養施設おがの山荘を廃止</p> <p>越谷レイクタウン駅が開業</p>				<p>賞味期限改ざんや原材料偽装などが続き、「食」の安全・信頼が大きく揺らぐ。日本列島74年ぶり猛暑、熊谷市(埼玉県・多治見市(岐阜県)で40.9度最高気温40.4度を記録</p> <p>越谷社会保険事務所がオープン</p> <p>リサイクルプラザがオープン</p> <p>増林地区センター・公民館、教育センターが開館</p> <p>市民課で旅券(パスポート)の申請・発給業務を開始</p> <p>南越谷地区が市内13番目の行政区となる</p> <p>減、人口減社会に突入</p>				<p>病後児保育室が開設</p> <p>ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で王ジャパンが初代王者に。人口動態統計で初の自然減、人口減社会に突入</p> <p>南越谷公民館が文部科学大臣から優良公民館表彰を受賞</p> <p>ごみの分別方法が変更(8品目から15品目へ)</p> <p>中学校の学校選択制を導入</p> <p>第3次越谷市総合振興計画後期基本計画がスタート</p> <p>荻島地区センター・公民館「たんぼぼ」が開館</p>			<p>JR西日本福知山線で脱線事故。愛知県で日本国際博覧会(EXPO2005)が開催。耐震強度の偽装で不安が広がる</p> <p>農産物直売所蒲生店「これとれの」が開業</p> <p>市長選において板川文夫氏が3選</p> <p>越谷市斎場(増林)の供用を開始</p>		

平成21年～平成30年

# 中核市・越谷の誕生

## さらに便利で豊かなまちへ

人口増加社会から人口減少社会へと移りゆくなかで、全国の自治体は以前にも増して、魅力あるまちづくりや住民サービスの向上に力を注ぐようになりました。越谷市でも中核市への移行を主に、より市民に身近できめ細かなサービスが提供できるよう取り組みが進められました。

平成21年（2009）には、越谷のまちづくりの基本となる越谷市自治基本条例が制定・施行されました。平成23年には、東日本大震災が発生し、越谷市にも大きな影響を与えました。平成24年には、越谷駅東口に越谷ツインシティが完成。再開発事業も完了し、越谷駅前の利便性が向上しました。平成25年には市北部を竜巻が襲い、大きな被害が発生しました。平成27年には、越谷市が中核市に移行。越谷市保健所の運用も開始されました。また、梶田隆章さんがノーベル物理学賞を受賞し、



▲越谷市障害者就労訓練施設「しらこぼと」が開設(平成23年)

平成23年(2011)				平成22年(2010)				平成21年(2009)						
11月	10月	6月	4月	3月	1月	10月	9月	7月	4月	11月	10月	9月	8月	4月
東日本大震災、原発事故で甚大被害。なでしこジャパン、サッカーW杯優勝	「ガーヤちゃん」に特別住民票を交付	地域の支え合いと憩いの場「ふらっと」がもう開設★ 介護支援ボランティア制度がスタート	こしがやブランド認定制度がスタート	障がい者の就労支援と地域交流の拠点「しらこぼと」が開設 第4次越谷市総合振興計画がスタート	東日本大震災が発生。帰宅困難者対策、避難者支援、放射線対策を実施★	越谷いちご観光農園が開園★	裁判員裁判始まる。ポップスのスーパースター、マイケル・ジャクソンさん死去	越谷アリタキ植物園が開園★	中学校修了まで医療費が原則無料に 越谷アリタキ植物園が開園★	福祉なんでも相談窓口が開設 市長とふれあいミーティングが開催	越谷市フィルムコミッションがスタート	板川文夫氏が市長退任	越谷市自治基本条例を施行★	大相模地区センターが新たにオープン 大相模調節池に水辺のまちづくり館がオープン 越谷駅東口第一種市街地再開発事業、再開発ビル着工

(年表で★マークのあるものは、「越谷市 この10年間の変遷」(P.34～41)に掲載しています)



▲「ガーヤちゃん」に特別住民票を交付(平成23年)

越谷市名誉市民に決定されました。平成28年には、星奈津美さんがオリンピックで2大会連続となる銅メダルを獲得し、越谷市民栄誉賞が贈られました。



▲越谷ツインシティがオープン(平成24年)

平成26年(2014)				平成25年(2013)					平成24年(2012)				
11月	10月	9月	3月	12月	11月	10月	9月	4月	9月	8月	7月	6月	4月
日本人3人にノーベル物理学賞。消費税が8%に	ご当地ナンバー「越谷」の交付スタート★ 越谷レイクタウン特定土地区画整理事業が完了★	市指定有形文化財「旧東方村中村家住宅」が開館	サンシティ2階に南部出張所が移転 サンシティ6階に新南部図書室がオープン	特定秘密保護法が成立。2020年夏季五輪・パラリンピックが東京開催決定	出羽地区センター・公民館がオープン。地区センター・公民館初の太陽光発電を採用	越谷市災害時要援護者避難支援制度を新設	駅の橋上化と東西自由通路の開通により利用しやすくなった新しい大袋駅舎が誕生 「ふらっと」おおぶくろが開設★ 月1回の休日市民課業務を開始	児童発達支援センターが開設 市北部に甚大な竜巻被害が発生★	山中伸弥氏にノーベル医学・生理学賞。東京スカイツリー完成。地上デジタル放送への完全移行完了 越谷ツインシティがオープン★	全国中学校剣道大会を開催。越谷市からも個人戦3人、団体戦1チームが出場	星奈津美選手、足立夢実選手がロンドン大会に出場。星選手が銅メダル獲得★	越谷ツインシティBシテイに市民活動支援センターなどがオープン★	市役所東側に葛西用水ウッドデッキが完成★ 成人夜間急患診療所が開設



▲新しい大袋駅舎が誕生(平成25年)



▲旧東方村中村家住宅が開館(平成26年)

平成28年(2016)						平成27年(2015)								
9月	8月	6月	4月	3月	2月	12月	11月	10月	9月	4月	3月	1月		
熊本地震、死者150人超。大隅良典氏にノーベル生理学・医学賞	星奈津美選手、杉町マハウ選手がリオデジャネイロ大会に出場。星選手が銅メダル獲得★ 野島にある浄山寺の「木造地藏菩薩立像」が国の重要文化財に指定	星奈津美選手に市民栄誉賞を贈呈★	越谷レイクタウン地区が都市景観大賞(国土交通大臣賞)を受賞	第4次越谷市総合振興計画後期基本計画がスタート 越谷市商工会が越谷商工会議所へ移行	越谷市初のコミュニティ放送局「こしがやエフエム」が開局	梶田隆章氏に名誉市民の称号を贈呈★	梶田隆章氏など日本人科学者2人がノーベル賞。マイナーの通知始まる	木下半助商店の「店舗及び土蔵・石蔵・主屋・稲荷社」が国の登録有形文化財(建造物)に登録	梶田隆章・東京大学宇宙線研究所長がニュートリノ研究でノーベル物理学賞を受賞決定★	台風18号に伴う記録的な大雨の影響により、市内各所で大きな被害が発生★	越谷市保健所が開設★ 越谷市消防本部に高度救助隊が発足 原付バイクのオリジナルナンバープレートの交付を開始★	県から福祉、保健衛生、環境分野などの事務の移譲を受け、中核市・越谷が誕生★	小児、成人の夜間急患診療所を統合し、越谷市保健所に移設	越谷いちごタウンが開園★

(年表で★マークのあるものは、「越谷市 この10年間の変遷」(P.34～41)に掲載しています)



▲リオデジャネイロ大会に出場する星選手をイオンレイクタウンで行われたパブリックビューイングで応援。銅メダル獲得の当日に広報こしがやの号外も発行された(平成28年)



▲大塚商会アルファーズ(現 大塚商会越谷アルファーズ)に支援書を交付(平成29年)

平成30年(2018)					平成29年(2017)										
11月	8月	7月	6月	4月	3月	2月	12月	11月	10月	8月	5月	4月	3月	2月	
小学校で道徳が教科化。梅雨前線の活発化で、西日本で記録的な大雨。北海道胆振東部地震が発生	市制施行60周年記念式典が執り行われる	市民球場で夏期巡回ラジオ体操。みんなの体操会が開催	サンシティでNHKのど自慢が開催	旧大相模交番を活用し、大相模安全安心ステーションが開所	こしがや愛されグルメを認証 レイクタウン保育ステーションを開設 ラジオ広報番組「教えて!ダイジ先生」越谷のココが大事」がスタート 総合体育館で大相模越谷場所が開催	大相模交番が越谷レイクタウン駅前交番に移設 埼玉発地域ドラマ「越谷サイコー」(NHK)が放送される	天皇退位、平成31年4月末に。陸上男子100メートルで桐生祥秀選手が日本人初の9秒台	増林地区の水田で古墳時代前期の遺跡を発見	大塚商会アルファーズを母体とするBリーグクラブ発足に係る支援書を交付	市長選挙で高橋努氏が3選	消防署谷中分署が開署 小学校30校、中学校15校に空調設備の設置が完了	新観光物産拠点施設「ガーヤちゃんの蔵屋敷」がオープン★	病児保育室が開設	越谷八潮線が市内全線開通 越谷市認知症初期集中支援チームが開設	中心市街地に新たなにぎわいを目指して株式会社中央住宅と基本協定を締結。油長内蔵が市に寄贈される